

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年6月28日】第88号



## カラフルザリガニがやってきた

6月22日(火)、東京農業大学教職・学術情報課程武田晃治教授に、3年生の稲花タイムの授業をお願いしました。生きものの色の意味を考えようと題して、武田先生が開発された白色ザリガニを材料に、餌によって色が変わる様子を観察するものです。子どもたちは異なる色素を含む餌を作製し、その日から、朝夕の餌やり、水替え、タブレットによるザリガニの撮影に取り組んでいます。

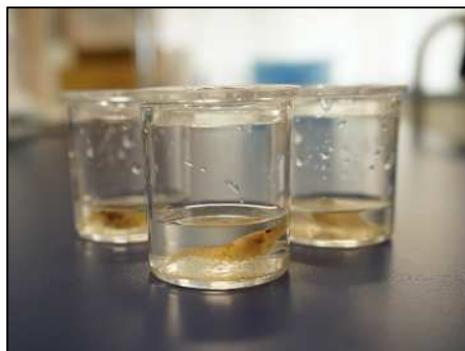
武田先生によるこのザリガニを使った学習は、単に色の意味を知るだけでなく、SDGsに関わる学びとして、環境科学教育として、また、外来種問題、さらにその活用などを考える機会を含む、奥の深いものでした。

とはいえ、ザリガニの世話は簡単ではありません。説明をよく聞かずに餌の量を間違える子ども、時間が足りなくてバスに乗り遅れるから(!)と帰ろうとする子どももいて、それぞれの子どもの特性がよく見えるハプニングもありました。

しかし、毎日少しずつ、白色ザリガニの体色が黄色や、オレンジにと変わっていくのを見るのは、誰にとっても興味深いようです。武田先生から「ザリガニマイスター」のバッジを頂いた子どもたち、29日(火)におこなわれる武田先生による2回目の授業でのまとめを楽しみにしています。



ザリガニマイスター



## キャッチ アンド リリース

農大稲花小の子どもたちは、生き物が大好きです。登校途中も、ダンゴムシやら、ハサミムシやら、ヨトウムシの幼虫やらを捕まえて、意気揚々と登校してくる子どももいます。本校では「学

習に関係の無いものは学校に持ってこない」ことを約束としていますので、昆虫でも花でも木の実でも例外ではありません。昇降口に入る前に、昆虫は逃がすように指示をしています。

校内の植え込みで捕まえた昆虫はどうでしょうか。せっかく捕まえたカマキリの幼虫などを手放したくない、というその気持ちはもっともです。でも、校内のものは、みんなのものです。花や虫をそれぞれが持ち帰ってしまったら、他の友だちは見ることはできません。自分の気持ちを抑えられるようになることも、成長の一つでしょう。こちらも、下校前には放すように指導しています。

好奇心いっぱいの子どもたちですが、本校では子どもたちによる生き物の持ち込みや継続的な飼育などは原則としてしないことをご理解の上、子どもたちの生き物探しや飼育してみたいという気持ちを、ご家庭でも応援していただければ幸いです。

## 珍客も

3年生の理科を担当する非常勤講師蝦名元先生は、(一財)進化生物学研究所の研究者でもあり、生き物に関する著書もお持ちです。3年生は今、昆虫のからだのつくりを学んでいるところなので、教材として巨大なクモ、ヤスデ、輪切りにしたセミなどの標本を提供していただきました。

さらに、折々に、モンシロチョウ、アゲハチョウ、さらには巨大なテントウムシであるハラグロオオテントウムシ、跳ねる様子が楽しいコメツキムシの一種、さらにとっても珍しいオオムラサキの幼虫などもご提供いただいています。このような実物を使って学ぶというのが、どれほど素晴らしいことなのか、子どもたちは今はまだわかっていないかと思います。とはいえ、様々な、そして普通では見ることができない貴重な実物を使った学習により、その内容は、子どもたちの中にきちんと定着するものと確信しています。



ハラグロオオテントウムシ

コメツキムシ〔動画 15秒〕：<https://vimeo.com/568216782>

## せたがやそだち

農大稲花小の3年生は、6月24日(木)と25日(金)に、社会科の見学として世田谷区桜丘4丁目にある中杉キッチンガーデンを訪問しました。「中杉農園」として知られている農家ですが、今は体験型農園「中杉キッチンガーデン」として、長く続けてこられた農業に加えて、児童が農業体験ができる場ともなっています。

世田谷区の農地は、東京23区内でも2番目の規模で広いそうです。そして、世田谷区内で生産された野菜や花、果物などは「せたがやそだち」としてブランド化されているのです。



3年生は、世田谷区の農家である中杉さんに様々な質問をし、また、花の苗や野菜を作っている様子も見せていただきました。初めての社会科の見学ですから、質問も目的に合わせた内容にしなくてはなりません。もちろん、訪問のマナーも大切です。3年生はそれなりの成長を見せていますが、さらに学び、身に付けるべきは多くあることでしょう。そして何より、児童の訪問を受け入れてくださった「中杉キッチンガーデン」の皆様に感謝しています。

### 中杉キッチンガーデン

<https://www.facebook.com/nakasuginouen/>

### 「せたがやそだち」

<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/shigoto/008/001/d00182480.html>



### 忘れ物・失くし物

農大稲花小では、忘れ物をして学校に届けに来ないよう保護者をお願いしています。児童が、忘れ物をしたことをきちんと受け止め、忘れ物をしないようになることが大切だからです。もちろん、学習に支障のないように、教員も配慮し、友だちも力を貸してくれています。本人も、友だちも成長する機会でもあるのです。ごくまれにですが、正門まで届けに来られる保護者がいらしても、同じ説明をし、ご家族のご理解をいただくようにしています。子どもの成長の芽を、大人が摘んでしまってはいけません。

失くし物についても同様です。持ち物に名前を書いていない児童については、保護者による点検が必要です。さらに、よく探さない児童には、じっくり探すように指導しています。失くしてもすぐを買ってもらえると、もし児童が考えているようであれば、この先が心配ではありませんか。

教育後援会から小さくなった制服のリサイクルについて、ご提案を頂いています。児童が興味を持っているSDGsの「ゴール12 つくる責任 つかう責任」にも合致することでしょう。まだ検討が必要ですが、制服や制帽のリサイクルが実現すれば、これもまた、児童がモノを大切にする機会になるものと期待しています。

校長 夏秋 啓子